

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	出雲児童相談所	氏名	池渕明美
派遣先 団体名	特定非営利活動法人 プロジェクトゆうあい		
<p>【研修の日時・研修の内容】</p> <p>●第2ジュニアゆうあいでの療育活動補助</p> <p>○7月30日(月)9:00～17:45 午前は施設内で通所児と過ごし、午後は大山へブルーベリー狩り体験に出かけた。</p> <p>○7月31日(火)9:00～17:45 午前から昼にかけて海釣り体験に出かけた。午後は施設内で通所児と過ごす。</p> <p>○8月1日(水)9:00～17:45 昼前まで施設内で通所児と過ごし、昼食を外食後、米子市の図書館へプラネタリウムを見に出かけた。</p> <p>●まち歩きバリアフリー情報誌「てくてく日和」の取材に同行 障がいのある方が実際に観光地を巡ってレポートする雑誌の取材に同行し移動介助を行った。</p> <p>○8月20日(月)8:20～17:50 「はっとうフルーツ観光園」での梨狩り、「光澤寺」での瞑想体験、若狭鉄道乗車体験、「HOME8 823」での昼食</p> <p>○8月27日(月)8:30～17:30 「大江ノ郷ヴィレッジ」でのバームクーヘン作り体験及び施設内の飲食店での食事、「やずミニSL博物館」でのミニSL乗車体験</p>			
<p>① 研修の感想</p> <p>(研修の全般的な感想、各団体での活動の意義や協働に対する感想(研修前後における意識の変化)等について記入してください。)</p> <p>障がい児通所支援事業では、将来自立して生活できるようにするため、施設内のお手伝い(仕事)を用意したり、おやつにもあえて値段をつけて決められた金額内で選ぶシステムになっているなど、子どもが楽しく学べる工夫がされていました。</p> <p>また、夏休みには様々なイベントが計画されており、将来、仕事のストレスとのバランスを保つために、仕事以外の余暇として自分の楽しみを持てるよう考えられていました。</p> <p>「てくてく日和」の取材では、想像以上に障がい者の方の移動の大変さを痛感しました。各地でバリアフリー化が進んでいますが、本当に困ったときに助けてくれるのは人だと思いました。私は介助者として同行させていただきましたが、車いすが通れるように車を移動してもらったり、数段の階段を一緒に運んでもらったり、移動しやすいルートを教えてもらったり、人に助けられたと感じる時間を過ごしました。</p>			

福祉事業は往々にして利益を生む分野ではないため補助金や利用料等に頼らざるを得ないことも多く、金銭面で職員の負担になっているものもありました。

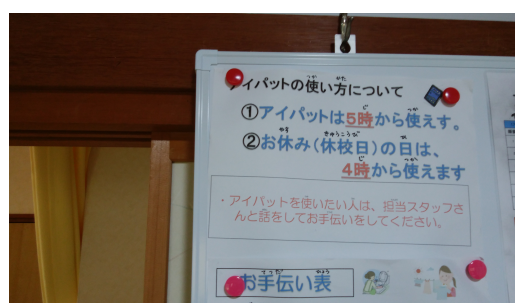
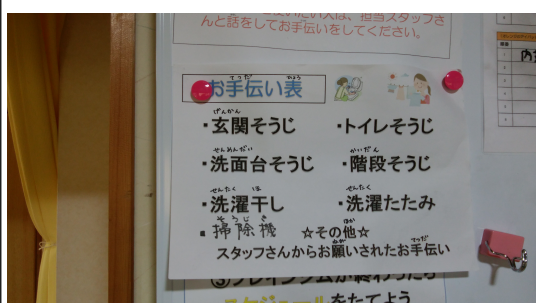
障がい児通所支援事業では、現場のみなさんの蓄積されたノウハウにより何年もかけて成果が出るため、周囲に必要性が理解されにくいところは課題だと思います。

福祉行政において、今回のようなNPO法人が運営する事業の支えなしには成立しないと実感しました。これらの事業が安定して継続できる仕組みづくりを協働して進めていくために、多くの行政職員が研修に参加し現場を知る機会があるとよいと思いました。

ゆうあいでは、職員さんが「楽しい」というキーワードを意識され、楽しくアイデアを出し合っておられるのが印象的でした。最後に、ゆうあいのみなさまには、貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

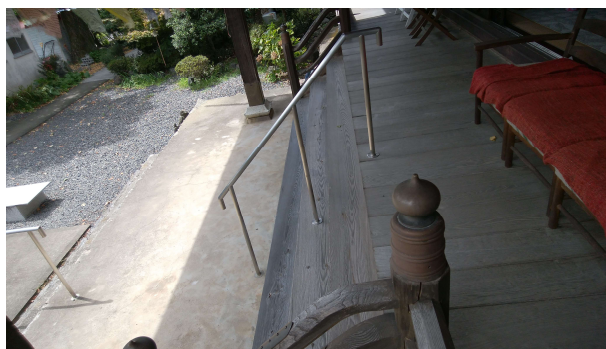
《放課後デイの掲示物》

※お手伝いをしたらiPadが使える。



《てくてく日和の取材》

※実際の段差等、細かく計測して記録していきます。



② その他特記事項

(※今後の研修実施に当たっての改善点、留意しておくべきことなどがあれば記入してください。)

(注1) 研修日時・内容等がわかる資料があれば、添付してください。

(注2) 報告書は、平成 31 年 1 月 31 日までに人事課あてにメールで提出してください。